

ミシェル・ペトルチアーニのペダル

石濱 裕規

医療法人社団永生会
一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 理事

ミシェル・ペトルチアーニ (Michel Petrucciani, 1962年12月28日 - 1999年1月6日) は、フランス出身のジャズ・ピアニスト。先天性骨形成不全症、身長1m 足らず。音楽家の父トニーの方針で、学校には通わずピアノ演奏技術を習得。13歳でステージに立ち、17歳でアルバムデビュー。18歳でアメリカに渡り、外国人としては初めて名門ブルーノート・レコードと契約。1994年にフランスに戻り、ドレフィス・レコードと契約。フランス政府より最高位勲章であるレジオンドヌール勲章を授与。1999年、36歳で死去。結婚は三回。フランス最高のジャズ・ピアニストと評された。

学生時分より永らく愛聴している。紹介したいアルバムは多くあるが、1984年のニューヨークの名門クラブでの疾走感と才気溢れるライブを収録した『Live at the Village Vanguard』、エディ・ルイスのオルガンとピアノとの絶妙な駆け合いに魅了される二枚組デュオ作品である『Conférence De Press』を特に推奨したい。また、ブルーノート・東京で女性に抱き抱えられてステージに登壇し、Steve Gadd、Anthony Jacksonと素晴らしいトリオ演奏を披露した姿は忘れられない。その演奏は、ライブアルバム『Trio in Tokyo』にも収録されている。

彼の生涯を描いた2011年のフランス・ドイツ・イタリア合作映画「情熱のピアニズム」(原題: Michel Petrucciani - Leben gegen die Zeit) では、ペトルチアーニのピアノテクニックの神髄はその柔らかい骨のため手首を健常者の何倍も早く動かせることにあると紹介されている。障害を強みにする

ことに他ならない。

また、ペトルチアーニの身体では、通常のペダルには足が届かなかった。そのため、父が工夫考案したともされるペダル補助具が、スタインウェイ社製のグランドピアノに設置されていた。ライブで各地を回る際も、ペダル補助具は彼と共に旅をした。

リハビリテーション工学、支援技術の役割は、ペトルチアーニと共に旅をしたペダル補助具のごとく、人の意欲、才能、創造力の発現を支えることにある。

ミシェル・ペトルチアーニの墓は、パリのペール・ラシェーズ墓地内、フレデリック・ショパンの墓の隣にある。暑い時期に、その墓を訪ねた折には、隣のショパンの墓前に劣らぬ献花があった。



図1
ミシェル・ペトルチアーニの墓 (右)、左はショパンの墓

勤務先 医療法人社団永生会